

「災害から一人の命も取り残さないために～要配慮者の備えと避難行動～」(仮題)【約 25 分】

2020 年 11 月 6 日 シノプシス 2 稿
千葉エデュケーショナル株式会社

	映像内容	ナレーション要旨
1	プロローグ	【1分】
	短いオープニング。細かい内容は扱わず、メインタイトルまでのつなぎに留める。	
	<p>■近年の地震・水害の被害状況</p> <p>■メインタイトル</p>	<p>□この教材の狙いを端的に表すナレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害が頻発する日本。 ・備えと避難行動が一層、重要になっている。 ・しかし、避難したくても自分ひとりでは動けない人がいる。情報の入手すら困難な人たちがいる。 ・その命をどう守れば良いのだろうか。
2	要配慮者とは？ 対策の現状は？	【4分】
	要配慮者とは何か、災害時にどのような困難が生じるのかを簡潔に解説する。続いて、東日本大震災以降、国の施策が進められてきたが、現状、まだ道半ばであることを伝える。その上で、いま私たちにできることは何なのだろうかと問いかける。画面構成としては、合成スタジオを背景にMC（「ためらわずに避難」と共通）が解説する形を基本とする。	
	<p>■MC語り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージ写真を挿入 <p>■要配慮者のコメントを短く①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力歩行できない障害者：Aさん <p>■要配慮者のコメントを短く②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの視覚障害者：Bさん 	<p>□要配慮者とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障害者、難病患者など、災害時に自力での危険回避や避難行動が困難な人たちのことを要配慮者という。 ・災害時、要配慮者には様々な困難が生じる。 <p>□要配慮者には災害時にどのような困難があるのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定するコメント概略「車いすが必須である。瓦礫や浸水で道がふさがれると自力では避難できない」 ・想定するコメント概略「そもそも災害情報を得ることが困難である。また、移動すること自体に危険が伴う」

	<p>■要配慮者のコメントを短く③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害者の親 or 本人：Cさん <p>■MC語り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 震災被災地の資料映像を挿入 ・ 名簿などのイメージ映像や、適切なイメージ写真等を挿入 <p>■MC語り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 想定するコメント概略「状況を受け止めることができない。また、避難所での困難を思うと避難をためらってしまう」 <p>□進められてきた施策とその現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要配慮者は災害時に弱い立場に置かれる。東日本大震災では死者数の6割が高齢者、障害者の死亡率は2倍であった。 ・ 東日本大震災を契機に災害対策基本法が改正され（2013）、避難行動要支援者名簿の作成が市町村に義務付けられた。 ・ 名簿に基づき、支援が必要な一人ひとりに、誰がどこへ避難させるかの具体的な避難計画を作成することが目標。 ・ 各自治体には福祉避難所の整備が求められている。 ・ しかし、これらの対策は現状、思うように進んでいない。 <p>□次章へのつなぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策の目標が達成されるにはまだまだ時間がかかる。しかし災害は待ってくれない。要配慮者の命を守るために、今すべきこと、できることは何なのだろうか。
3	<p>要配慮者に必要な備えと避難行動の計画 【10分】</p>	
	<p>要配慮者やその家族がすべきこと（自助）を扱う。要配慮者3名が登場し、それぞれの状況を語ることで内容に幅を持たせる。まず「日頃からの備え」を解説し、次に避難行動の計画（タイムライン）を作成する流れとする。基本的に水害についての内容となるが、部分的に地震への備えにも触れる。なお、出演者はスタジオに一堂に会するのではなく、それぞれ個別に取材・収録を行う。 <u>※現状、出演者は未定なので、以下の内容は仮のもの。</u></p>	
	<p>■MC語り</p> <p>■出演者3名それぞれの紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Aさん：身体障害／車いす ・ Bさん：視覚障害／一人暮らし ・ Cさん：発達障害／本人か親 <p>※別々に取材してワイプ合成</p> <p>■MC語り</p> <p>■ハザードマップの例</p>	<p>□日頃からの備えが不可欠</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時、要配慮者には多くの困難がふりかかる。日頃からの備え、避難行動の計画が不可欠である。 <p>□出演者の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ MC「備えと避難行動は要配慮者一人一人です。ここでは3名の方を例に、それぞれのケースを見ていきます」 ・ 要配慮者3名が紹介される、もしくは自己紹介する。障害の状態、被災経験の有無、家族構成（一人暮らしか否か）など。 <p>□備え①：住む場所のリスクを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅の危険度を知ることが避難行動を決める大前提となる。 ・ ハザードマップの活用、その見方を説明する。

<p>■MC語り</p> <p>■イラスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えられる避難先の例 <p>■Aさん、Bさん、Cさん</p> <p>■備蓄品の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬や特殊な器具を含む <p>■何らかの在宅用医療機器</p> <p>■ポータブル電源（バッテリー）</p> <p>■情報伝達のための物品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード等 <p>■ヘルプカードの記載例</p> <p>■Aさん、Bさん、Cさん</p>	<p>□備え②：避難先の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅にそれほど危険がないのであれば、自宅に留まることが最も安全な選択肢となるかもしれない。 ・外部への避難が必要な場合でも、避難先は避難所だけではない。集合住宅の上階、親戚宅、病院、ホテルなども選択肢。自身の状況も踏まえて検討する。 ・Aさん、Bさん、Cさんの選択は…。 <p>□備え③：備蓄品と非常用持出品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備蓄品は1週間分を用意。食料や水といった一般的なもののほか、個人的に必要な医薬品や装具は各自で用意しておく。 ・自宅が無事でも周辺地域が停電するケースが多い。医療機器等の電源の確保が必要。大容量のポータブル電源を推奨。 ・視覚・聴覚・言語障害がある人は、情報伝達用の道具（筆談用具など）を非常持出品の中に準備しておく。 ・また、望む援助や対応を記入したヘルプカード（地域によっては別の呼称か？）を作成して携帯しておく。 ・そのほかA、B、Cさんが必要とする物の例を挙げる。
<p>■MC語り</p> <p>■テロップ画面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警戒レベルの表など 	<p>□警戒レベルに基づく避難行動の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MC「では次に、水害の危険が迫った場合に、どのタイミングで、どんな行動をとれば良いのかを見ていきましょう」 ・避難行動の基準になるのが警戒レベル。各レベルの意味や、とるべき行動を簡潔に解説する。 ・肝心なのがレベル3。要配慮者はレベル3で避難開始。
<p>■MC語り</p> <p>■Aさん、自身の状況を語る</p> <p>■MCがまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさんの状況がタイムラインに反映されていく 	<p>□具体的な避難行動は一人ひとり異なる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しかし、実際の災害時には避難の判断は容易ではなく、要配慮者それぞれの状況によっても、とるべき行動は異なる。 ・MC「…ですから、自分の場合はどうするか、時系列に沿った避難行動の計画をあらかじめ作っておくことが大切です。それではまず、Aさんの場合はどうでしょうか」 <p>□Aさんの行動計画（※現状、架空の内容です）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさん：自宅は浸水想定区域／避難先は友人宅か避難所／移動は電動車いす／一人暮らし ・警戒レベル1で：車いすの充電、友人の在宅予定を確認 ・警戒レベル2で：避難先の決定と家族等への連絡 ・警戒レベル3で：車いすで避難 ・ほかに、避難経路を事前に確認することが望ましい。

	<p>■ Bさん、自身の状況を語る</p> <p>■ MCがまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Bさんの状況がタイムラインに反映されていく <p>■ Cさん、子の状況を語る</p> <p>■ MCがまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Cさんの状況がタイムラインに反映されていく <p>■ MC語り</p>	<p>□ Bさんの行動計画（※現状、架空の内容です）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Bさん：自宅は安全／在宅避難を想定／全盲／一人暮らし ・ 警戒レベル1で：仕事の調整、情報収集ツールの準備 ・ 警戒レベル2で：長期の在宅避難に備えて備蓄品の追加 ・ 警戒レベル3で：在宅避難していることを各所に連絡 <p>□ Cさんの行動計画（※現状、架空の内容です）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Cさん（発達障害児の親と仮定して）：自宅は浸水想定区域／避難先は避難所かホテルを想定／服用薬が必要 ・ 警戒レベル1で：家族の予定の調整 ・ 警戒レベル2で：ホテルの空室を確認、服用薬の準備 ・ 警戒レベル3で：家族全員、車で避難 ・ ほかに避難所や福祉避難所を事前確認することが望ましい。 <p>□ ここまでのまとめと、次章へのつなぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こうした具体的な避難計画はタイムラインと呼ばれ、災害時の行動を明確にする、非常に重要なものである。 ・ 一方、避難計画を実効性のあるものにするためには、周囲の人たち、すなわち地域の協力が欠かせない。
4	地域の中で命を守る	【8分】
	<p>地域の中での支援のあり方について解説する。共助に関することが中心となるが、一部、要配慮者側に必要な行動も含まれる。避難所内で必要な配慮についてもここで扱う。最後に（防災関係者ではない）一般市民に向けた内容を入れ、全体的なまとめへと持っていく。</p>	
	<p>■ 近年の地震・水害の被害状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「共助」を感じさせるもの <p>■ MC語り</p> <p>■ 防災訓練の資料映像</p> <p>■ 道で挨拶する要配慮者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AさんもしくはBさんで再現 <p>■ 名簿登録用紙の例</p>	<p>□ 命を守るために地域の力は欠かせない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数々の災害を経験した日本。災害時の混乱の中、命を救えるのは同じ地域に住む人たちであることを、私たちは学んだ。 ・ とりわけ要配慮者を守るためには、地域の力が欠かせない。 <p>□ 存在を知らなければ支援はできない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ そのそもその大前提として、要配慮者の存在を地域（隣近所、自主防、民生委員等）が知らなければ支援のしようがない。 ・ そのためには、要配慮者が自ら地域に出ていくことが重要。防災訓練などへの参加、それができなければ、近所の人との挨拶ひとつでも良い。とにかくコミュニケーションをとる。 ・ 避難行動要支援者名簿に登録しておく（手上げ方式）。

	<p>■自主防の会議の資料映像</p> <p>■MC語り</p> <p>■東日本大震災の資料映像</p> <p>■避難所（訓練）の資料映像</p> <p>■A、B、Cさんのコメント</p> <p>■MC語り</p> <p>・適宜、イメージ映像を挿入</p>	<p>□必要な支援の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域は、把握した情報や要配慮者本人の要望を踏まえて、どんな支援が必要かを検討する。 ・地域としてどこまでの支援を行うか、また支援者の選出方法などについてルールを定め、地域内に周知しておく。 <p>□支援者について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援者については、可能な限り要配慮者本人が探して願うする。それが困難であれば地域でサポートする。 ・支援者は、仮に支援できなくても責任を負うものではなく、自分と家族が優先で良い。これは、多数の支援者が犠牲になった東日本大震災から得られた大切な教訓である。 <p>□避難所に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の開設・運営も基本的に地域が主体となる。その際の配慮も必要である。 ・A、B、Cさん、避難所で想定される困難の具体例を挙げる。 ・避難所では要配慮者をトイレに近い場所に配置する、情報伝達方法は文字・音声など複数用意する、といった配慮が必要。 ・知的障害者、発達障害者など、避難生活に馴染めない人がいることを理解し、可能であれば個室を用意しておく。 ・医療機関への移送が必要となった場合の対応を決めておく。 <p>□防災担当者以外の全ての人たちに向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MC「防災に関わる人たちだけではありません。全ての人地域の一員。皆さん一人一人が、支援する立場にあります」 ・専門的な知識がなくても、車いすを押す、荷物を持つなど、できることはいくらかもある。何をすれば良いかわかなければ、本人や家族に聞けばよい。 ・支援を必要とする人たちがいる。それを知っておくだけでも命を守ることにつながる。 ・他人事だと思わないでほしい。歳をとれば、病気を抱えれば誰もが要配慮者だ。もし発災時にケガをすれば、その瞬間、あなたも要配慮者だ。 ・誰もが命を守れる社会。それには共助の精神が欠かせない。
5	エピローグ	【2分】
	<p>要配慮者は自らできる備えを着実にを行うこと（自助）。それを受け止め、地域全体の力で支援を行うこと（共助）。以上を簡潔にまとめ、エンディングとする。</p>	

	<p>■MC語り</p> <ul style="list-style-type: none"> 適宜、振り返りの映像を挿入 	<p>□全体のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時、命を守ることができるのは、同じ地域に暮らす人々（行政ではない）。とくに要配慮者においてはそうだ。 要配慮者は、自分でできる備えを万全に行い、地域の人々の中に入っていくこと。地域の人々はそれを受け止め、できる範囲で支援を行うこと。 災害から一人の命も取り残さないために。自助と共助の体制を築いていこう。

【備考・補足】

- ・「要配慮者AさんBさんCさん」は現状、出演者未定です。決定したのち、その方々の実際の状況に合わせてシナリオを作成します。そのため、内容が大幅に変更される可能性があります。
- ・「要配慮者」と「避難行動要支援者」という用語は、定義はあるものの、行政でもあまり厳密な使い分けはしていないようです。一方、「要配慮者」は多用されていますが、「要支援者」という呼び方は見られません。よって、このビデオでは「要配慮者」という呼称で統一したいと考えています。

【参考にした主な資料】

- ▶ハートネットTV「水害から命を守る（1）障害がある人の避難行動」（NHK）
- ▶要配慮者のための防災行動マニュアル（小平市）
- ▶要配慮者避難支援ガイドライン（船橋市）
- ▶災害時における要配慮者及び避難行動要支援者の避難支援の手引き（千葉県）

以上